

# サイドコアの展覧会で生まれた動き

## アートの現場から

ACAC通信

青森公立大学国際芸術セ

ンター青森（ACAC）で

は、4月24日からSIDE

CORE（サイドコア）に

よる、匿名アーティストグ

ループEVERYDAY

HOLIDAY SQUA

D（エブリディ・ホリデイ

・スクワッド）の個展「u

nder pressur

e（アンダープレッシャ

ー）」が始まりました。サ

イドコアは日本のストリー

トアートを起点に作品制作

や展覧会の企画などを行う

アートコレクティブ（集団）

で、メンバーはそれぞれ個

人のアーティストやキュレ

ーター、映像ディレクター

としても活躍しています。

ストリートから拡大して公

共事業や土木工事に対して

も強い関心をもち、今回青

森では青函トンネルと竜飛

岬のリサーチを敢行しまし

た。本展ではACACのギ

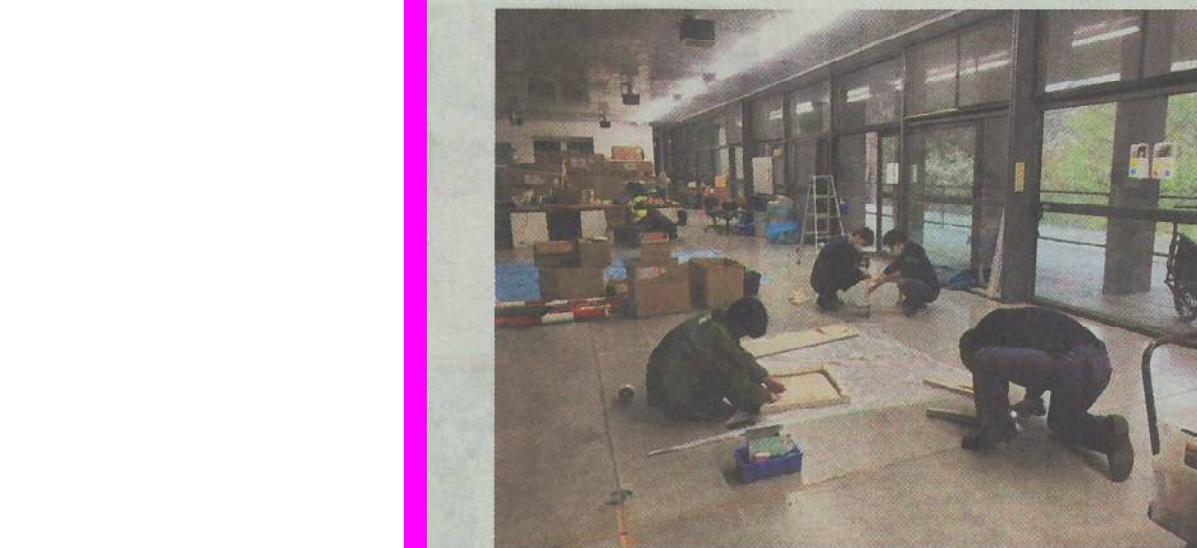
ヤラリーをトンネルに見立

て、風が出る箱を積み上げ

て換気を行う高さ1.5m超の

巨大な彫刻作品《タワーリ

ング・ウインド》3点を中心



学生向けに行われたキャンバス作りワークショップの様子

※第1金曜日掲載。今回は都合により変更しました

メンバーは4月上旬からACACに滞在し、リサーチ

で温めてきたテーマやプランを実現させるべく約3週間制作に集中しました。滞

在アーティストの活動をサポートするAIRS（エア

ーズ）はじめ、青森公立大

学や美術系大学に通う学

生、これまでサイドコアが企画する展覧会に参加して

きたアーティストなどがボランティアとして作品制作に参加。青森公立大学の学

生ボランティアには木工や絵を描くことに興味を持つ人が多いことが分かり、展

覧会オープン後に創作棟の片付けと清掃を行った後、

街歩きイベントを東京で収録した映像作品の上映会、

5月1日には青森バージョンのナイトウォークを行

い、青森駅から徒歩圏内に所在する落書きや壁画、建築の解説、トマソン（不動産に付属している無用の長物）など、青森在住者でも気づかなかつた街の隙間を見つけ出し参加者と時間を共有しました。

本展は6月27日まで。最終日には、美術評論家の木野衣氏をゲストにトークイベントも実施予定です。

（青森公立大学国際芸術センター青森学芸員 慶野結香）

サイドコアの松下徹による

絵画用キャンバス制作ワークショップが行われまし

た。有名アーティストの影響を受けた本格的なキャン

バスの作り方を学び、どのような絵を描くか考えながら自分のキャンバスを熱心に作成する姿が印象的でした。